

CHIBA CANCER CENTER NEWS

千葉県がんセンターニュース



巻頭言

共に歩むがん治療

医療局長 傳田 忠道



このたび、千葉県がんセンター医療局長を拝命いたしました。

千葉県がんセンターは、県民の長年の要望からがん対策の中心的役割を果たすため1972年に開設されたがん専門病院です。都道府県がん診療連携拠点病院、がんゲノム医療拠点病院に指定されています。

がん医療は、この十数年で大きく進歩しました。ロボット支援手術、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬、がんゲノム医療など、新しい治療法が次々と実用化され、多くの患者さんに新たな治療の選択肢が広がっています。

当院では、患者さん、ご家族、地域の皆様の期待に応えられるよう、職員一同が力を合わせ、より良いがん医療の提供に努めてまいります。

また、安心して治療を受けていただけるよう、院内には「患者総合支援センター」を設置しています。センターには、がん相談支援センター、地域統括相談支援センター、入退院支援室、周術期管理センター、がん治療サポート外来などがあり、療養生活に関するさまざまな相談に対応しています。治療費や通院、仕事や介護などで不安や困ったことがありましたら、お気軽に患者総合支援センターへご相談ください。

最後に、私が聞いて印象に残っている言葉をご紹介します。

国立千葉病院の元院長である武者先生が、聖路加国際病院の日野原重明先生から「長生きの秘訣」を個人的に伺い、その後、下志津病院院長の吉田先生の送別会で紹介されたお話です。日野原先生は100歳を超えてもなお診療や執筆、講演を続けられ、105歳まで生涯現役を貫かれた医師です。

その日野原先生が語られた長生きの秘訣とは、「1. 風邪をひかないこと」、「2. 転ばないこと」、そして「3. 義理を欠くこと」の3つです。

「1. 風邪をひかないこと」とは、日頃から感染予防を心掛けることです。外出後や食事前の手洗いやうがい、人が多い場所でのマスクの着用など、基本的な感染対策が大切です。特に、がん治療中は免疫力が低下しやすいため、より一層の注意が必要です。

「2. 転ばないこと」も大切です。転倒による骨折は、長期間の入院や寝たきりにつながります。

そして、「3. 義理を欠くこと」。マイナスな感じですが、この言葉には「無理をしないこと」、「自分を大切にすること」、「人の力を借りること」という意味が込められていると受け止めました。困ったときには一人で悩まず、医療スタッフやご家族、周囲の方々に相談してください。当院の患者総合支援センターでは、療養生活や介護・福祉、仕事との両立などについて相談をお受けしています。

がんと向き合う毎日の中で、風邪を予防し、転倒を防ぎ、そして決して無理をしないこと。そのためにも、一人で抱え込まず、どうぞお気軽に私たちへご相談ください。職員一同、皆様に寄り添いながら支援してまいります。



臨床の現場から

血液内科領域の最新治療について

診療部長 腫瘍・血液内科 部長
武内 正博

当院には新たな治療法の開発に寄与すべく治験・臨床研究センターが設置されており、当科をはじめとした複数の診療科で多くの治験を行っています。当科でも血液内科領域の悪性腫瘍に対する治験を数多く実施していますが、そのうちのいくつかをご紹介します。

すでに保険適用されている薬剤としては、びまん性大細胞型B細胞リンパ腫 (DLBCL) に対するポラツズマブ ベドチン (ポライビー®) があります (図1)。この薬剤は抗体薬物複合体 (ADC) と呼ばれる種類の薬剤で、Bリンパ球表面のCD79bという抗原に結合する抗体に強力な抗がん剤を結合させたものです。これにより、Bリンパ球を特異的に攻撃することができ、副作用を抑えながら高い治療効果が得られることが示されています。

近年開発が進んでいるのが、二重特異性抗体と呼ばれる薬剤です。技術革新により、一つの抗体で二種類の異なる抗原を認識・結合できるようになりました。一方の腕を細胞傷害効果をもつTリンパ球に、もう一方の腕を腫瘍細胞表面の抗原に結合させることで、腫瘍細胞のすぐそばにTリンパ球を引き寄せ、免疫の働きによって腫瘍細胞を攻撃することができます。

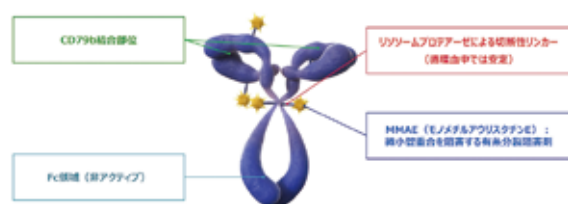
すでに臨床現場で使用できる薬剤として、B細胞性悪性リンパ腫の一部に対してはエプコリタマブ (エプキンリ®) とモスネツズマブ (ルンスミオ®) の2種類が、多発性骨髄腫に対してはエルナタマブ (エルレフィオ®)、テクリスタマブ (テクベイリ®)、トアルクエタマブ (タービー®) の3種類が保険適用となっています。このうちテクリスタマブおよびトアルクエタマブについては当院で治験を実施しており、このほかにも複数の二重特異性抗体の治験を当科で行っています。

さらに多発性骨髄腫では、テクリスタマブなどが標的とするBCMA抗原とトアルクエタマブが標的とするGPRC5D抗原に加え、CD3にも結合することで殺細胞効果をもたらす三重特異性抗体の開発が進んでおり、当院でも治験を実施しています (図2)。

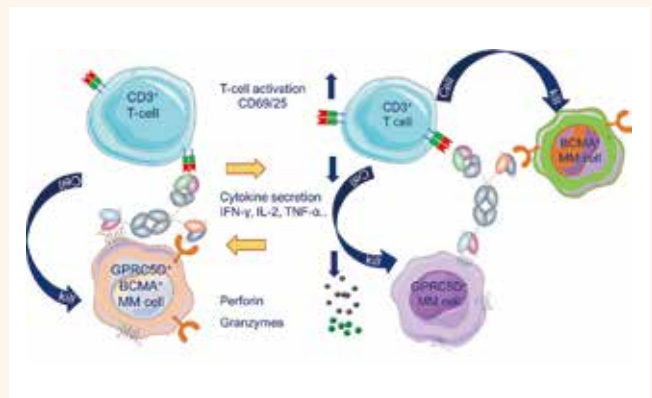
新薬の開発により治療成績は向上してきていますが、まだ十分とは言えない状況です。当科では引き続き治験や臨床研究を通じて、新たな治療法の開発に貢献していきたいと考えています。治療法にお困りの患者さんがいらっしゃいましたら、ご相談ください。今後予定している治験も含め、より良い治療法がないか検討いたします。

ポラツズマブ ベドチンの構造 (イメージ図)

ポラツズマブ ベドチンはCD79bを標的とした抗体薬物複合体 (ADC) である



▲ (図1)



▲ (図2)



地域医療連携室 だより

令和8年度 地域医療連携懇談会の開催について

副病院長 患者総合支援センター 部長

米本 司

令和8年度地域医療連携懇談会を、11月14日（土）15時より千葉県がんセンターにて開催いたします。なお、ご希望の方を対象に、14時から病院見学を予定しております。

今年度は、「がん医療の均てん化と集約化」をテーマに、当院病院長 加藤 厚が講演いたします。

2040年には、人口減少や高齢化の進行に加え、医療従事者の不足が見込まれる中、質の高いがん医療を将来にわたり持続的に提供するための医療体制の構築が求められています。国では、地域で必要ながん医療を受けられる体制を維持しながら、高度で専門性の高い医療は適切に集約するとともに、地域の医療機関がそれぞれの役割を担い、連携を一層強化していく方向性が示されています。

講演では、こうした国の方向性を踏まえ、地域におけるがん医療の将来像や、当院に期待される役割、地域医療機関との連携のあり方についてご紹介いたします。

また、当日は各診療科部長も出席し、当院の診療体制や各診療科の特色をご紹介するとともに、地域の医療機関の先生方との情報交換の機会を設けております。顔の見える関係づくりを通じて、地域医療連携をより一層深め、日々の診療や患者支援につながる機会となれば幸いです。

詳細につきましては、9月頃に改めてご案内いたします。ご不明な点等ございましたら、千葉県がんセンター地域医療連携室までお問い合わせください。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

千葉県がんセンター 地域医療連携懇談会

●日時：2026年11月14日（土）15:00～17:00

●場所：千葉県がんセンター
千葉市中央区仁戸名町666-2

見学（希望者のみ）

14:00 病院見学

地域医療連携懇談会

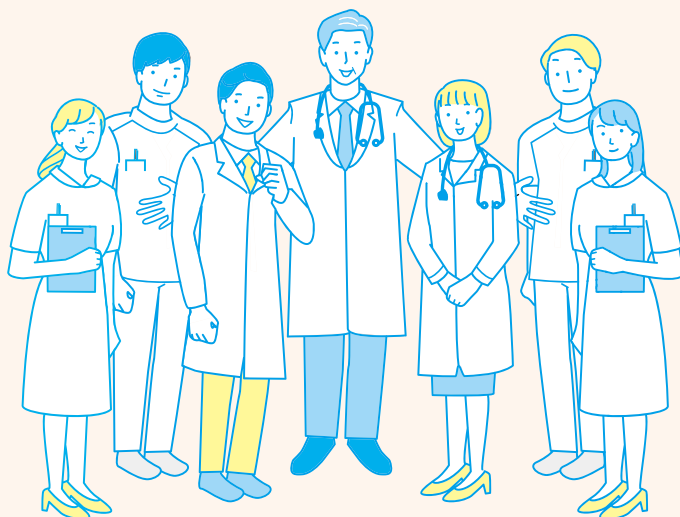
15:00～15:05 開会あいさつ

15:05～15:35 講演会

15:35～16:55 診療科紹介・意見交換会

16:55～17:00 閉会あいさつ

お問い合わせ先：千葉県がんセンター 地域医療連携室
電話番号：043-264-5431（代表）





研究の現場から

臨床現場の疑問を、研究のかたちに

研究所 がん予防センター 予防疫学研究部 部長
道端 伸明

私たち予防疫学研究部は、日々の診療の中で積み重なっていくデータを研究に活用し、そこから得られた答えを診療の現場に還元することを目指しています。

図は、予防疫学研究部の4つの柱を示しています。本稿ではそのうちの2つを紹介します。柱のひとつが、大規模レセプトデータを使った研究です。

レセプトとは、医療機関が保険者に医療費を請求するときの明細書のことです。病名や検査、処方された薬などが記録されており、これを個人が分からないように加工して数百万人分を集めたものが、大規模レセプトデータです。リアルワールドデータとも呼ばれ、研究のために選ばれた人ではなく、実際に医療機関を受診している人たちの、ありのままの姿をとらえられることが強みです。対象者数が非常に多いため、めったに起こらない出来事も調

べられます。集団としての傾向を分析するため、個人が特定されることはありません。

研究の具体例としては、17年間のデータを用いて、15歳以下のお子さんを対象に、帝王切開で生まれたことと小児白血病との関係を調べました。その結果、両者に関連は見られませんでした。

もうひとつの柱が、当センターの診療データを使った院内共同研究です。当センターは病院と研究所が同じ敷地内にあり、日ごろから顔を合わせて相談できるという強みがあります。

薬剤部との共同研究では、がん患者さんへの抗うつ薬の処方実態を調べ、うつ病そのものよりも、不眠や痛み・しびれに対して処方されていることが多いと分かりました。

また、診療各科と医療情報部門との共同研究では、生成AIに退院時サマリーや紹介状の下書きを作成させて評価

し、まだ実用に十分な水準には達していないこと、そして診療記録に書かれていない情報はAIにも補えないことを確認しました。

こうした研究の積み重ねが、原因の解明の手がかりになり、医療の質の向上につながります。

全国規模のデータでも、院内のデータでも、出発点は日々の診療記録です。これからも院内のみなさんと一緒に、患者さんによりよい医療を届けられるよう、研究を重ねていきます。



治験の用語:無作為化(ランダム化)

無作為化(ランダム化)とは、治験に参加する患者さんを、くじ引きのように規則性がない方法でグループに分けることです。たとえば、治験の薬剤を使うか使わないか、使う場合の量の違い、あるいは別の薬と効果を比べる場合などに分ける

治験臨床試験推進部 部長 三梨 桂子

れます。この方法により、年齢や病状などの偏りを少なくし、薬の効果や安全性を公平に比べることができます。なお、どのグループになるかは、医師や治験のスタッフが決めることはできません。

治験
アップデート
UPDATE

当センターでは以下の治験を実施しています

治験臨床研究センターでは募集中の治験等の情報を提供しています。概要は以下のとおりですが、詳しくは当センターのホームページをご覧ください。

ホームページアドレス

<https://www.pref.chiba.lg.jp/gan/riyo/kanja/chiken/jissijoukyou.html>

現在募集中の治験情報 R8/6月末時点での募集中試験数は 38 件

①食道がん	1件	④前立腺がん	4件	⑦多発性骨髄腫	2件	⑩膵臓癌	2件
②胃がん	1件	⑤乳がん	9件	⑧非小細胞肺癌	2件	⑪頭頸部癌	2件
③大腸がん	7件	⑥リンパ腫	6件	⑨胆道癌	2件		

地域とともに歩むがん医療 「地域医療講演会」の取り組み

病院長 加藤 厚

千葉県がんセンターでは、県民の皆さまに正しいがんの知識をお伝えし、がんに対する不安や疑問を少しでも解消していただくことを目的として、「地域医療講演会」を開催しています。病院長が地域の公民館や自治会館、コミュニティセンターなどへ赴き、地域の皆さまと直接対話しながら、がん医療に関する情報を分かりやすくお伝えしています。

令和7年度は、川戸公民館、花輪町弥生が丘自治会館、宮崎公民館、蘇我コミュニティセンターなどで開催しました。「がんの予防・早期発見」「正しいがんの情報を知るために必要なこと」「がん治療の不安に答える」といったテーマを取り上げ、最新のがん医療だけでなく、患者さんやご家族が抱える不安、その背景にある課題や解決のヒントについてもお話しています。講演後には質疑応答の時間を設け、参加者一人ひとりの疑問や不安にお答えすることで、地域の皆さまとの双方向のコミュニケーションを大切にしています。

また、当院では毎年「県民公開セミナー」を開催しています。令和8年度は、「がんは治る病気へー10年後のがん医療を解説」をテーマに開催する予定です。医師や看護師が登壇し、それぞれの専門的な立場から、これからのがん医療や患者支援について分かりやすく発信します。

これらの取り組みは、千葉県がんセンターと地域住民をつなぐ重要な架け橋であるとともに、県民の皆さまのがんに対する理解を深め、安心して医療を受けられる地域づくりにつながる啓発・教育活動であると考えています。地域の公民館や自治会、各種団体などで講演をご希望の場合は、ぜひお気軽にご相談ください。今後も地域の医療機関の先生方とも連携しながら、正確で信頼できる情報を広く発信し、県民に寄り添うがん医療を推進してまいります。



地域で行われた講演会の様子

第24回 千葉県がんセンター県民公開セミナー開催のご案内

広報委員長 診療部長 武内 正博

千葉県がんセンターでは、毎年秋に県民公開セミナーを開催していて、当院の医療職を中心とした講師が主に一般の方向けに無料で講演を行っています。

「第24回 千葉県がんセンター県民公開セミナー」は、2026年10月3日（土）13時から（12時開場）JR千葉駅直結のペリエ千葉7階 ペリエホールで開催します。事前申込不要で先着300名様無料ですので、皆様お誘いあわせの上ぜひお越しください。

今年のテーマは「がんは治る病気へー10年後のがん医療を解説」です。肝胆膵外科部長の賀川真吾による「低侵襲手術の近未来」、診療部長 腫瘍・血液内科部長の筆者武内正博による「がん治療の選択肢が広がる今：分子標的薬・免疫療法の基礎と最新治療」、核医学診療部スキルフルドクターの久山順平による「PSMA治療の現在と放射性リガンド療法の展開」、がん薬物療法センター主任看護師の三木梓による「安心して続けるがん化学療法ー治療と生活を支える工夫ー」、がん相談支援センター専従看護師の中村晃子による「がんは治る病気へー知っておきたい、備えておきたいこと〜」の5講演を予定しています。

また、患者会の紹介や各患者会によるブースの出版、

当院がん相談支援センタースタッフによる「がん相談コーナー」も予定しています。

詳細につきましては、二次元コードからご確認ください。（当院ホームページに移動します。）皆様のご来場を心よりお待ちしております。

入場無料
先着300名様
事前申込不要

第24回
千葉県がんセンター
県民公開セミナー

**がんは
治る病気へ**
10年後のがん医療を解説

2026年
10月3日（土）
13:00〜15:30（開場12:00）

JR千葉駅直結
ペリエ千葉7階 ペリエホール
千葉市中央区新千葉1-1-1

プログラム

開会挨拶 加藤 厚
 ① 低侵襲手術の近未来 賀川 真吾
 ② がん治療の選択肢が広がる今：分子標的薬・免疫療法の基礎と最新治療 武内 正博
 ③ PSMA治療の現在と放射性リガンド療法の展開 久山 順平
 ④ 安心して続けるがん化学療法ー治療と生活を支える工夫ー 三木 梓
 ⑤ がんは治る病気へー知っておきたい、備えておきたいこと〜 中村 晃子

お問い合わせ先
千葉県がんセンター事務局 庶務課 043-264-5431

千葉県がんセンター
県民公開セミナーページ



第24回県民公開セミナー広報用チラシ

初診担当医表

*当センターは予約制となっております。受診される場合は、電話で予約をおとりください。
*初めて受診なされる場合は、かかりつけ医など医療機関からの紹介状をお持ちください。

診療科	月	火	水	木	金
肝胆脾外科	岩立 陽祐	賀川 真吾	加藤 厚 石毛 文隆	柳橋 浩男	有光 秀仁
ハイパーサーミア	千葉 聡	千葉 聡			千葉 聡
食道・胃腸外科	加野 将之 外岡 亨 天海 博之	早田 浩明 外岡 博之 天海 博之 【第1・3・5】 平澤壮一郎 【第2・4】 鍋谷 圭宏	加野 将之 早田 浩明	加野 将之 成島 直樹 桑山 直樹	加野 将之 平澤壮一郎
消化器内科	傳田 忠道 三梨 桂子 喜多絵美里	傳田 忠道 須藤研太郎 天沼 裕介 根本 裕貴	三梨 桂子 中村 和貴 喜多絵美里 古賀 邦林	傳田 忠道 三梨 桂子 武内 良久	須藤研太郎 中村 和貴 天沼 裕介 古賀 邦林
内視鏡科	鈴木 拓人 箕輪真寿美	杉田 統	石垣 飛鳥	徳長 鎮	北川 善康
呼吸器外科	坂入 祐一		岩田 剛和 坂入 祐一		岩田 剛和
呼吸器内科	芦沼 宏典	芦沼 宏典 齋藤 幹人 丸山 香苗		水野 里子 齋藤 幹人 丸山 香苗	芦沼 宏典
乳腺外科	中村 力也 山田 英幸	羽山 晶子	羽山 晶子 山田 英幸 吉村 悟志	羽山 晶子 山本 寛人	山田 英幸 手嶋 大
形成外科				徳元 秀樹	徳元 秀樹
婦人科	碓井 宏和 糸井 瑞恵 中嶋 太郎 東 真理恵	碓井 宏和 【第1・3・4・5】 鈴鹿 清美	糸井 瑞恵 【第3・4・5】 田中 尚武	碓井 宏和 糸井 瑞恵 東 真理恵	中嶋 太郎 田中 尚武
泌尿器科	小丸 淳 新納 潤 山崎賢太郎 高木 柚里	米田 慧 池原 哲郎	新納 潤 加藤 朱門 根本 卓実	米田 慧 加藤 朱門 高木 柚里	小林 将行 山崎賢太郎 池原 哲郎
腫瘍血液内科	武内 正博 真子 千華 柴宮明日香	辻村 秀樹 菅原 武明 三科 達三	菅原 武明 依田 夏美	真子 千華 三科 達三	武内 正博 辻村 秀樹
脳神経外科	井内 俊彦 堺田 司	(担当医)	井内 俊彦 長谷川祐三	(担当医)	堺田 司 長谷川祐三
頭頸科	(担当医)	木下 崇 三田 恭義 宮田 卓		木下 崇 三田 恭義 宮田 卓	
整形外科	米本 司 鴨田 博人 木下 英幸	鴨田 博人 萩原 洋子		米本 司	米本 司 萩原 洋子 木下 英幸
緩和医療科	坂下 美彦		坂下 美彦		坂下 美彦
核医学診療部			久山 順平	久山 順平	



電話予約

初診・再診予約(患者予約)

月曜日～金曜日 午前9時～午後5時

☎043-263-4071

予約変更(患者予約)

月曜日～金曜日 午後1時～午後4時

☎043-263-4071

医療機関からの直接予約

月曜日～金曜日 午前9時～午後5時

☎043-264-5633

ACCESS 交通のご案内



JR 千葉駅から 所要時間：約 25 分

京成バス千葉イースト：菅田駅、鎌取駅、大宮団地
(星久喜台経由) 行乗車・千葉県がんセンター前下車



JR 鎌取駅から 所要時間：約 13 分

京成バス千葉イースト：千葉駅・蘇我駅行乗車・千
葉県がんセンター前下車



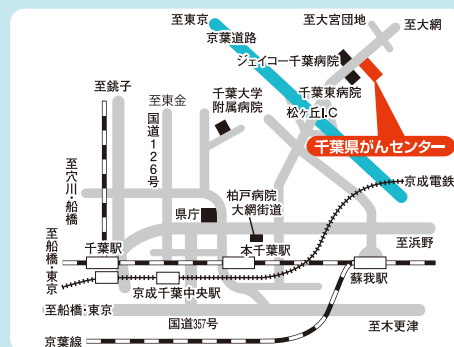
JR 蘇我駅から 所要時間：約 16 分

京成バス千葉イースト：鎌取駅行乗車・千葉県がん
センター前下車



松ヶ丘ICから

大網街道を大網へ向って約 2km 右側



千葉県がんセンターホームページ
<https://www.pref.chiba.lg.jp/gan/>

千葉県がんセンターは、厚生労働省が指定した都道府県がん診療連携拠点病院です。また、がんゲノム医療拠点病院、小児がん連携病院の指定も受けており、高度先進的な医療、安全で最適な医療をみなさまに提供いたします。



インスタ用



X



(発行) 千葉県がんセンター
〒260-8717 千葉市中央区仁戸名町 666-2
TEL.043-264-5431 FAX.043-262-8680